

粉じん作業特別教育受講報告書

実習工場班 内野 拓

1.はじめに

H21/9/14 に静基連会館にておこなわれた「粉じん作業特別教育」について報告します。

2.講義概要

4 時間半の講義を行った。関係法令について協会の方から 1 時間、その後、外部の講師の方にじん肺・防塵のための設備・防塵マスクについての講義を 3 時間半受けた。

3.所感

講師の方が、以前アーク溶接講習のときと同じ方でしたので、実は内容が似通っていたのですが、長年の経験による実例はやはり興味深いものでした。

三保造船で長年、安全衛生に関わってこられた方でしたので、アーク溶接によるじん肺で亡くなられた方 2 名の話など、じん肺の症状や実際の発症例についての具体的な話を聞き、じん肺の怖さを実感させられました。

防塵には局所排気装置や水の散布が有効であるとの話を伺いました。理想は隔離された場所での全自動溶接なのですが、平面でしか使えないとのことで、曲面の溶接が多い造船関係では全体の 3 割も出来ないそうです。さらに船内部では密閉された換気の悪い環境なので、そういった場所では、エアラインマスク（外部のコンプレッサーからホースで直接、清浄な空気をマスクに送るもの）がベストとのお話でした。

防塵マスクについての講義では、実際にアーク溶接現場で使われているものを見させてもらい、（具体的に企業名をあげるのもまずいので）ドコソコのマスクが良いですよ、といった話を伺いました。また、どんなにいいマスクでも使い方や手入れが悪いとまったく役にたたない、99.9% 防ぐはずが 75%程度になってしまう、とのことでした。

また、アゴヒゲから外部の空気がマスクに入るので出来ればそのヒゲを剃ってくれと作業者に言った、といったお話や、ペンキ塗布作業で、吸排気弁が有機溶剤でふにゃふにゃになってしまい中毒になった作業者がでた、という変わった話も聞けました。

そのほかに、始業前に窓を開けて全体換気をする、午前午後に掃除をする、などのちょっとした対策も有効とのことでした。

実習工場では、溶接やグラインダの作業はそれほど頻繁ではないので、講義にあった大きな対策設備は不要かもしれませんが、それでもこの講義は大変参考になり有意義なものでした。